

北見市における

中学校武道必修化に向けた取組

— 剣道の授業実践を通して —

オホーツク圏最大の都市・北見市は、平成18年3月5日、旧北見市、端野町、常呂町、留辺蘂町が合併し誕生しました。北海道の東部に位置しており、人口は12万5千人です。面積は1427・56平方キロメートルで北海道内では第1位、全国で第4位の広さです。



北見市教育委員会

1 北見市の概要

四季折々の鮮やかな自然とゆとりある都市空間を有する北見。美しく広大な田園が広がる「端野」。日本有数のホタテの産地として知られ、日本初の屋内カーリ

ング専用のホールが建てられ、多くのオリンピック選手を産み、映画「シムソンス」の舞台にもなった「常呂」。北海道屈指の温泉郷、おんねゆ温泉がある「留辺

蘂」の、それぞれ魅力にあふれた4つの地域が一つになったまちです。

当市には、大雪山系を源とする常呂川が流れ、オホーツク海に注ぎ、その流域は豊かな山の幸、海の幸に恵まれ、太古の昔から人々が暮らし、近世には河口に漁場の番屋が置かれました。安政5年(1



2 北見市の教育

北見市の学校教育推進の基本理念として「自ら夢や希望の実現に努め、ふるさと北見に誇りをもち、心豊かに、ともに支え合って生きる子どもの育成」としております。そのためには、教員の資質向上が不可欠であると捉え、各種

の独自の研修会を開催しながら、教育行政をすすめてきました。平成24年度は、中学校新学習指導要領の完全実施に伴い、武道授業の導入を円滑に行うための方策を検討し、柔道・剣道の安全指導研修会を開催いたしました。

3 安全への取組

北見市内中学校の武道の選択については、16中学校のうち、10校が剣道、5校が柔道、1校が相撲となっております。

番選択が多い剣道の有段者が極めて少なく、指導経験も浅いということがわかりました。

(1) 実態調査

平成24年度当初、市内の武道の有段者数について調査をしました。その結果、実施校が10校と一

(2) 安全講習会と授業への講師派遣

必修化に向けた安全指導の取組は、平成23年の「柔道の安全指導」講習会からはじまりました。各学校の保健体育担当教諭に対し、柔

道で起こりやすい事故や指導上の留意点を主な内容として、北見市柔道協会のご協力をいただきながら、実技を交えた研修を行いました。この講習会は引き続き24年度も実施することに加え、25年度からは、北見市の武道の安全指導の事業として、外部講師の派遣を柔道協会にお願いしているところで

各学校の柔道の授業に専門家が毎時間ティームティーチングとして入り、安全指導の徹底と、教員の資質向上を目指しております。また、有段者が少ない「剣道の安全指導」講習会も24年度から実施することといたしました。

剣道の講習会は、市内の有段者の校長と剣道の先進的な実践校である端野中学校の教諭を講師に迎えました。

端野中学校の授業の具体的な方法と安全指導について、実技を交えながら実施いたしました。



市内の屋内カーリング専用ホール

858)、この流域を探検した松浦武四郎は『戊午登古呂日誌』に当時の様子を記録しています。また、明治30年(1897)5月に坂本龍馬の甥、坂本直寛が率いる高知県の移民団、北光社が入地、同年6月と翌31年9月には屯田歩兵第4大隊が入地、開拓の主力となりました。

4つの地域の合併に伴い、「ひと・まち・自然きらめくオホーツク中核都市」を目指し、新しい歴史が始まりました。

4 剣道の授業の実際 (端野中学校1学年)

本時の展開

	学習内容と生徒の活動	教師のかかわり	評価、留意事項
導入	1 あいさつ ・ウォーミングアップ、剣道具の準備 ・正しい礼法であいさつを行う。(正座～座礼)	・様子を観察し生徒の健康チェックを行う	
	2 学習内容の確認 ・本時の学習内容を知る。	・各場所、課題を確認する。	
展開	3 ローテーションで簡易試合 ・時間で区切り、二人一組でローテーションをしながら、それぞれの活動を協力して行う。	・効率よく動けるよう声かけをする ・技能の習得の助言や指導を行う ・安全面の確認と指示をする	*安全面の配慮
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 礼法を大切に、習得した技を使いながら簡易試合をしよう！ ～面で一本を決めよう～ </div>		
	(1)簡易試合 ①試合の終始の礼を丁寧にいき、相手を尊重した態度を忘れない ②大きな声を出し、前時までに習得した技を積極的に使う ③審判の判断や指示を聞き、試合を行う	・一本になる条件を留意させる	■簡易試合の中で、相手を尊重した態度で礼ができる 【関心・意欲・態度】観察
	(2)剣道具を外す ・素早く剣道具を外す	・剣道具、竹刀を丁寧に扱わせる	■基本動作と基本的な技を用いて、攻防ができた【運動の技能】観察
	(3)自由練習 ・試合の反省を基に、次の試合に向けての技を選択して積極的練習する	・技を選択させ安全に留意し、積極的に練習させる	■試合の反省を基に、次の試合に向けての技を選択して練習することができる【思考・判断】観察
	(4)記録 ①試合者が一本を取得した回数を記入する ②試合終了後、気剣体の項目を評価し試合者に返す	・試合をよく観察させ、記録やまとめを記入させる	
(5)審判 「声がしっかり出ているか」(気) 「打突部位に竹刀が当たっているか」(剣) 「前に踏み込んでいるか」(体)	・積極的に判断し、旗を上げさせる ・見える位置に動くよう促す		
(6)剣道具の着装 ①素早く剣道具を着装する ②お互い協力しながら着装する	・剣道具、竹刀を丁寧に扱わせる ・安全に装着するよう、互いに確認する		
まとめ	4 本時のまとめ ・本時を振り返る 5 次時の確認	・各活動場所の取り組みを評価する。	

- (1)単元の目標
- 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ることができる。(関心・意欲・態度)
 - 課題に応じて、練習方法を工夫して行うことができる。(思考・判断)
 - 基本動作と基本的な技を用いて攻防を展開できる。(技能)
 - 剣道の特性や伝統的な考え方を理解することができる。(知識・理解)
- (2)単元の計画(下図)
- (3)単元の評価規準
- 運動や健康・安全への関心・意欲・態度
- ・ 礼儀作法ができる
 - ・ 危険な動作をしないことや、用具や場所などの安全
- 面に気を配ることができる
- 運動や健康・安全への思考・判断
- ・ 場に応じて速やかに活動している
 - ・ 練習方法を選ぶことができる
- 運動の技能
- ・ 基本動作と基本的な技を用いて攻防ができる。
 - ↓声がしっかりと出ている(気)
 - ↓打突部位に竹刀が当たっている。(剣)
 - ↓前に踏み込んでいる(体)
- 健康・安全への知識・理解
- ・ 技の名称や試合におけるルールについて理解している

単元の計画

時数	1	～	6	～	⑧	～	10
学習方法	オリエンテーション	基本動作：・礼 ・構え ・蹲踞 ・足さばき ・素振り ・踏み込み 剣道具の着装、結束			審判・ルール		
		基本的な技の習得： ・一本打ちの技 ・連続技 払い技 ・抜き技			簡易試合		

- (4)本時の学習(8/10)
- ①本時の目標
- 簡易試合の中で、相手を尊重した態度で礼ができる。(関心・意欲・態度)
 - 試合の反省を基に、次の試合に向けての技を選択して練習することができる。(思考・判断)
 - 基本動作と基本的な技を用いて、攻防ができる。(運動の技能)
- ②本時の展開(次頁)



剣道授業で剣道具を説明する教師

別 図

【剣道授業 チェックシート】

組 番 氏名 _____

礼法

項目	確認	自然体			
立礼					
		自然体から、約15度の角度で腰から曲げる。			
正座					
		足の親指(右上)を重ねて、背筋を伸ばす。			
座礼					
		正座の姿勢から、両手を床につき、両手に顔を近づける。(お尻が上がらないように)			
左座右起					
		左足を一步後ろに引き、膝をつく。次に右ひざも床に付けてから座る。(立ち上がる時は右足から)			
立礼(竹刀有)					
		左手に竹刀を持ち剣先を下げる。頭を下げた時、剣先は上がらない。			×
座礼(竹刀有)					
		左ひざの横に鍔(つば)、弦は下向きにして竹刀を置く。(竹刀は丁寧に扱う)			

5 おわりに

(5) 剣道授業チェックシート
一人一人に確かな技術の習得を
培う指導の基盤は、生徒が進んで
学習できる環境づくりが基本で
す。別図チェックシートを通し、
生徒自身で学習到達度を評価する
ことは、目標設定のための実態把
握が可能となります。

このような取組を授業の中で日
常的に行い、基本的技能の習得の
徹底を図り、武道としての「剣道」
を身につけさせる指導に心がけて
いるところです。
また、このことが安全指導につ
ながっていくものと確信しており
ます。

武道は、武技、武術などから発
生した我が国固有の文化であり、
基本的な動作や技を身に付けるこ
とによって、相手の動きに感じ
て、攻撃や防御をすることができ
るものです。
また相手を尊重し、練習や試合
をすることにより、日本の伝統的
な考え方や思想を体験的に学ぶこ
とができます。

育的効果が期待できます。
今後も生徒の健全育成に寄与で
きるような授業づくりを、専門的
な方々のご協力を賜りながら、構
築していくよう努めていきたいと
考えております。



教師の説明を正座して聞く



生徒に審判を務めさせての簡易試合の授業

【剣道授業 チェックシート】

組番氏名

素振り (正面)

項目	確認	※一連の動作を一挙動で行う。	
1		正しい中段から、竹刀の剣先を振り上げながら、右足が床をするように前方へ進める。	
2		左手のこぶしを額の上まで振りかぶる。	振りかぶった時に右足を床に付ける。
3		振り下ろしながら、左足を右足のかかとまで近づける。振りおろした時に足は中段の構えと同じ位置。	
4		振りかぶり	振り下ろし
		体の中心線から竹刀と両手が離れない。	両肘が伸びる。右腕は肩の高さ。左手はみぞおち。
送り足		送り足(後)	送り足(前)

【剣道授業 チェックシート】

組番氏名









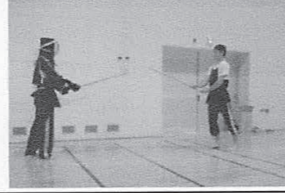
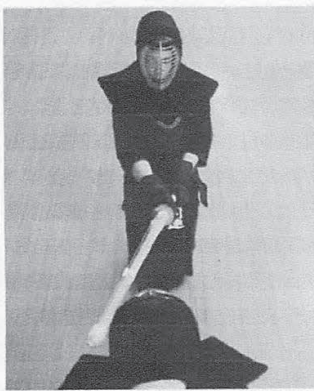

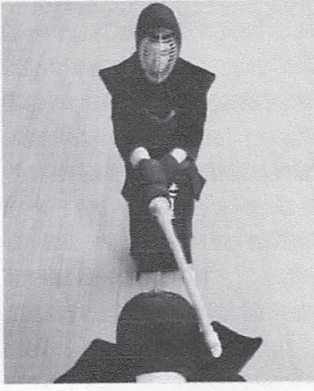



中段の構え

項目	確認			
上肢 (両手)		左小指を柄頭、へそ下あたりで、体から拳一個分。親指と人差し指でV字、頂点を弦に合わせる。		
上肢 (手首腕)		手首を軽く内側にしぼり、肘を軽く緩める。	×横から握ったり、肘を突っ張らない。	
上肢 (背筋)		背筋を伸ばし、目はまっすぐ前を見る。		
下肢		左足のつま先にかかとを合わせて、こぶし一個幅。	かかとを少し上げる。ひざを曲げない。	
下肢・竹刀		両方のつま先を相手のほうへまっすぐ向ける。	竹刀の剣先を相手ののどに向ける。	
間合		遠い間合	一足一刀の間合(一步出ると当たる)	近い間合

【剣道授業 チェックシート】

組 番 氏名

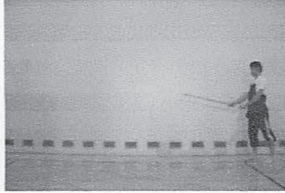
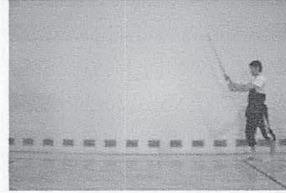
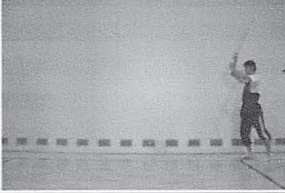
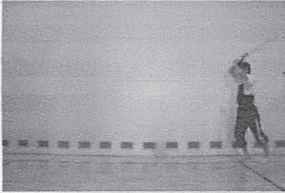
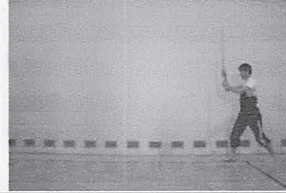






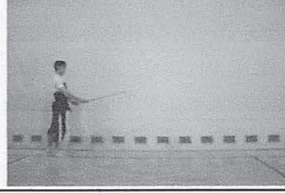
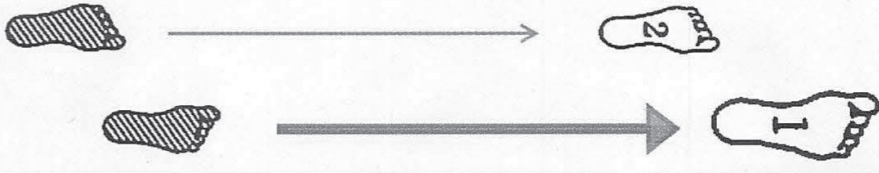



基本打突 (面)

項目	確認	※一連の動作を一挙動で行う。		
1				
		正しい中段の構えから、送り足で一足一刀の間に入りながら気迫を込める。		
2				
		左拳を額の上まで振りかぶる。	竹刀の振り下ろしに合わせて、踏み込み足で打突。	打突の後、すり足。
3				
		すり足で数歩進んだ後、右足を中心に振り返る。	振り返った後すぐに中段の構え(残心)。	
面打ち				
		左面	正面	右面
		刃筋(はずじ)正しく面に竹刀の物打ちをあてる。左右は、45度の角度で振り下ろす。		
打たせ方				
		打ち込んだ人が直線で進めるように、元立ち(打たれ役)は右に一歩体をさばく。		

【剣道授業 チェックシート】

組 番 氏名

空間打突 (面)

項目	確認	※一連の動作を一挙動で行う。		
1				
		正しい中段の構えから左拳を額の上まで振りかぶる。		
2				
		竹刀を振りおろし始めると同時に、左足で体を前方に押し出す。		
3				
		振り下ろした時に、右足を強く踏み込む。(踏み込み足)	左足を素早く引きつけ送り足をする。	
4				
		右足を軸に素早く振り返り、中段の構えをする。(残心)		
踏み込み足				
		右足を飛び込ませるようにして踏み込み、素早く左足をひきつける。		
5				
		振り下ろしたとき、両肘が伸びる。	実際に面を打つイメージを持つ。	